

(1)



# 教育研修

No.137 (令和3年3月1日)

## おもな内容

随想	ページ 1
教育講演会	2
研修講座寸描	3～6
出前講座寸描	6
令和3年度 講座開設の工夫・ICT実技研修講座開設	7
令和3年度 研修センター開催予定講座	8
研究室だより・研究協力校の実践	9～10
研修センターの貸室案内	10

「カーリング教室」 令和二年十一月実施  
 南富良野町はカーリングの町として、町内の学校でカーリング教室が行われています。指導者の中には元オリンピック選手の方もおり、専用施設で本格的な指導をしていただけます。カーリングの楽しさを味わった子どもたちの中から、未来のオリンピックが誕生するかもしれません。(南富良野町立南富良野小学校)

## 随想

### 地域とともにある教育

上川教育研修センター組合教育委員会

委員 藤本 武

(占冠村教育委員会教育長)



平成二十一年七月に教育長就任から一〇年。本会報寄稿のため回想をすると、「占冠村の学習環境が急変したなあ。」の思いをあらためて強くしてしまっています。私の占冠村の第一歩は『占冠村産業課畜産係』（昭和五十三年）です。

人口 1,589人

世帯数 501世帯

農家数 88戸

出身地である歌志内市とは全く違った風景でした。面積は十倍以上なのに山ばかり。

さて、「村民一年生」は仕事を覚えなければなりません。これは誰にでも当てはまると思いますが、座学及び実習で得た知識との違いを教えてくれるのが現場の先生。私の場合は酪農家と肉牛農家の方々でした。「良き先輩(篤農家)の言葉を蔑ろにしたら仕事が進まない」当時の私の貴重な教訓です。時代は昭和から平成に、鉄道開通とリゾート開発で村内の景色が変わりました。が、後のバブル経済崩壊にもなう人口減少に、児童生徒数もそれに比例するのが残念な現実でした。

今、小規模校の取組を諸先輩から引き継いでいますが、それを支えてくださるのが地域の皆さん。おそらく占冠村で昭和の時代に子育てをしておられた方々には申し訳ありませんが、耳なれない言葉が続いたことでしょう。

学校評議員制度 学校支援地域本部  
 環境整備ボランティア 小中一貫教育

コミュニティスクール GIGAスクール  
 タブレット AI 公設学習塾等々

児童生徒数の減少が続く中、平成二十七年度文部科学省『少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業』に着手し村内全三校のネットワークを整備。児童生徒一人ずつにタブレット、電子黒板の設置、テレビ会議システムの導入など小規模校のデメリットを最小に止めるべく授業の充実に努めてまいりました。

一方、これがために学校が地域から浮いた存在になりつつあるのではないのが、教育行政に携わる一員として頭を悩ませるところであります。かつて占冠村での学校統合に際し、地域から「学校があつて、子どもたちの声が聞こえて、地域が成り立っている」とのご意見をいただきました。背景が違う当時と一緒にできませんでした。背景が地域に育てられた分を子どもたちの元気で地域にお返しするのが小規模校の一つの役割ではないのかと、今も変わらぬそんな昔風の思いが脳裏を去来するこの頃です。

ともあれ、日ごろからご協力をいただいている保護者や学校支援地域本部をはじめとする地域の方々との連携・協力は、占冠村教育の大きな誇りです。さらなる『地域とともにある学校』を推進し、この小規模校から巣立つ子どもたちの活躍の一助を担ってまいります。

本校では「自己を見つめ、よりよい生き方について考えを深める生徒の育成」「考える道徳」「議論する道徳」の指導を通して「考える道徳」をテーマに校内研修を進めています。各学年で指導案を練り合い、全教員が授業を担当しています。写真は研究授業(二年一組)の様子です。多様な価値観を知り考えを深め広げることのできる場面設定や、自分自身の問題として捉えることのできる発問の工夫など、他者と共によりよく生きる生徒の育成を目指し、チームで研鑽を重ねています。(旭川市立光陽中学校)



## センター日誌

- 11月5日 研修事業拡大会議
- 11月27日 センター運営協議会
- 12月15日 センター研究発表会
- 1月18日 センター組合教育委員会会議
- 1月19日 冬季合同所員研修会
- 2月2日 冬季集中研究会
- 3月1日 センター組合議会定例会
- 3月31日 センターだより第137号発行
- 4月1日 令和2年度研究紀要第46号発行(予定)
- 令和3年度研修講座開催要項発行(予定)

※ 毎週火曜日 定例研究室会議

## 上川教育研修センター 教育講演会

概略

## 演題「『資質・能力』を育成するパフォーマンス評価」

講師 京都大学 大学院教育学研究科 教授 <sup>にし</sup>西 <sup>おか</sup>岡 <sup>かなえ</sup>加名恵 氏

## 1 「逆向き設計」論

資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくために、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の製作といったパフォーマンス評価などを取り入れて多面的・多角的な評価を行うことが必要である。

今日の話は、ウィギンズとマクタイという論者による逆向き設計論という考え方に基づいている。カリキュラムをつくるにあたって「どのような姿に子どもたちを育てようとしているのか、求められている結果を明確に」「その上でどんなエビデンスがあればその結果が達成できたかどうかを確かめられるか、教育評価方法を明確に」「その上で学習経験と指導を計画する」というようなことが提唱されている。

## 2 パフォーマンス評価とは

筆記による最も単純なものは客観テスト式の問題。筆記テストでも自由記述式はやや複雑度が増す。さらに複雑度が増すのがパフォーマンス課題であり、まとまった作品をつくるような課題がこれに該当する。パフォーマンス課題には、プレゼンテーションをする、実験を計画・実施・報告するような一連のプロセスをやってみせる課題が該当する。実演による評価方法でも実技テストになるとやや単純な評価方法、さらに単純になると活動を見ながら、できているできていないを点検していくような評価方法ということになる。

それぞれの評価方法には得意分野がある。例えば、運転免許を取る時は、まず運転の知識や法律の知識を確かめるために客観テスト式のテストが検定試験で行われる。それから、教習所のコースでは右折、左折、S字カーブといった個々の運転技能ができるかどうかを教習所を一通り回っていると分かる。知識・技能が身に付いてくると、路上教習・路上検定と進む。これは、リアルな状況で必要に応じて知識やスキルを引き出して、使いこなしながら安全に運転をすることができるかということが試される場となる。状況がリアルになればなるほど運・不運が出てくるが、路上教習・路上検定でない育てられない、評価できない力がそこにあるということが社会的に共通理解されている。

パフォーマンス評価というのは、知識やスキルを使いこなすことを求めるような評価方法の総称で、パフォーマンス課題は、中でも様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題ということになる。

本質的な問いに対応する永続的理解を身に付けているかどうかを見るためにはパフォーマンス課題を用い、知識や概念、スキルやプロセスを身に付けているかどうかを確かめるためにはテストを使うよう整理される。

## 3 本質的な問いとは

本質的な問いに対しては、単純な一つの答えが出ることは少なく、論争的で探求を触発し、様々な深まりで答えが出てくる特徴がある。この問いを念頭に置くことによって、それまでバラバラに見えていたような知識やスキルが頭の中で整理されていく。結果として、子どもたちにとっては学習意義が見えやすく、上の学校段階に進んだ時に、より実践的なこと、あるいは学問につながっていく。

## 4 ルーブリック

パフォーマンス評価で用いる評価基準表（ルーブリック）は、成功の度合いをとらえる数レベル程度の尺度と、それぞれの尺度に該当するパフォーマンスに見られる特徴を説明する記述語から構成される。強調したいのが、ルーブリックの評価基準表づくりだけで終わりにしないでほしいということ。ルーブリックの作成を踏まえてどういった指導の改善策が考えられるのか検討するところまで取り組んでほしい。

## 5 学力評価計画の立て方

「学びに向かう力、人間性等」という資質能力の三つ目の柱と、観点別評価における「主体的に学習に取り組む態度」との間には、ずれがあることに気を付けたい。つまり「感性」や「思いやり」、「人間性」といった本来成績付けにはなじまないようなことは入れなくてよい、入れてはいけないということが言われている。

あくまで教科内容に対して「主体的に学習に取り組む態度」を観点の評価にする。主体的に取り組む態度は挙手の回数やノートの取り方など形式的な活動で評価するものではない。粘り強い取り組みを行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面のみであると言われていた。

パフォーマンス課題は、ある程度時間をかけてじっくり取り組む形になるので、粘り強く取り組み、自己評価力を発揮しながら自らの学習を調整することが必要になる。従って、「主体的に学習に取り組む態度」を評価するのであれば、パフォーマンス課題でみるというようにルールをつくるのもよい。

## 6 ポートフォリオ評価法とカリキュラム改善

探究的な学習で問題解決をする場合は、パフォーマンス課題は窮屈になるので、ポートフォリオを勧めたい。行う際のポイントの一つ目は、学習者と教師で見通しを共有することである。何のためにつくるのか、どういう意味があるのか、どういう風に使っていくことになるのか、見通しを共有して始める。二つ目は蓄積された作品をそのままにせず、何らかの編集作業を入れることである。編集をすると学習の意義が分かりやすくなる。三つ目のポイントはポートフォリオ検討会を行うことである。逆向き設計論は、長期的な見通しのもとに個々の単元を改善し、カリキュラムを改善していく道筋を提案できることが魅力であり、まずは一つの単元で取り組み、徐々に広げ波及させていくとよい。



(3)

13 理科指導 7/29(水)・10/1(木)

北島やよい (神居小 校長)  
 長瀬 紋子 (神楽岡小 教諭)  
 中野 健 (永山小 教諭)  
 新井 崇仁 (愛宕中 教諭)

講師 II

(旭川市立共栄小学校 山崎 知子)

今年度、研究授業を見られたことは大変貴重でした。新しい単元である三年の「音」の導入場面の授業で参考にまりました。研究協議では、教材研究の重要性と実験結果の予想をさせることの必要性について学ぶことができました。



講座の様子から

研修講座寸描

15 道徳科指導 7/30(木)・9/25(金)

水上 丈実 (北海道教育大学 教職大学院 教授)  
 宮腰 唯導 (朝日小 主幹教諭)  
 小林 弘典 (永山西小 教諭)  
 小西 雅人 (東光中 教諭)

講師 II

(旭川市立神楽岡小学校 芳賀 一郎)

多面的・多角的に考える道徳の授業づくりや教材を通して、内容項目について深く考え理解することの大切さについて、あらためて考えることができました。日常の授業改善につながる学びが多い二日間でした。御指導ありがとうございました。

16 算数・数学科指導 7/31(金)・10/1(木)

谷地元直樹 (北海道教育大学 旭川校 准教授)  
 小野崎貴子 (永山中 主幹教諭)  
 宮内 清年 (東光小 教諭)  
 廣野 裕介 (緑が丘中 教諭)

講師 II

(剣淵町立剣淵中学校 村田 美穂)

コロナ禍にあり、なかなか集まった研修ができない中、授業を見せてもらうことができ、とてもよい刺激になりました。ありがとうございました。また、他校種の先生方の考えを聞くことができ、大変勉強になりました。



17 外国語(英語)指導 8/3(月)・10/8(木)

笠原 究 (北海道教育大学 旭川校 教授)  
 澤田 歩 (東明中 教諭)  
 沼山 敦子 (近文小 教諭)  
 中田 恭平 (広陵中 教諭)

講師 II

生徒のやる気を高めるためのライティングの評価法(加点式評価)やフォニックスやチャンツを活用したアルファベット指導など、生徒の「分かった、できた」を実感させる方法だと感じました。今後実践に生かしていきたいと思えます。(下川町立下川中学校 古川 梨紗)



20 社会科指導 8/6(木)・10/9(金)



小中とも「情報交換する機会をいいただきました。何の目的に情報交換するのか」という目的意識や、「情報交換したい」という児童生徒の主体性を引き出すような課題設定や発問の工夫、交流場面の関わり方について多くの御指導ありがとうございました。御指導ありがとうございました。

(比布町立中央小学校 大島 慎吾)

金 菫辰 (北海道教育大学 旭川校 准教授)  
 大垣 秀彦 (未広小 校長)  
 河野 翼 (神居小 教諭)  
 愛澤 純一 (神居東中 教諭)

講師

23 校内研修 9/16(水)

軽部 恭子 (日章小 校長)  
 石田 直也 (日章小 教諭)  
 細山 崇 (日章小 教諭)

講師

(美瑛町立明德小学校 伊藤 修二)

講義では、校内研究の意義や改善の視点、成果の生かし方について示していただき、研究の土台について再確認できました。また、研究授業や研究協議では、研究内容を授業で検証するための視点が明確になりました。ありがとうございました。



1 生徒指導 9/24(木)

貞弘 真悟 (広陵中 校長)  
 樋口 奨 (陵雲小 教諭)  
 高橋 司 (中央中 教諭)

講師

講義では、自己指導能力の育成を図る生徒指導の三つの機能について詳しく教えていただきました。また、公開授業を参観し、共感的な人間関係を築くための多様な指導の工夫を学ぶことができました。御指導ありがとうございました。

(名寄市立智恵文小学校 小林 悠介)



24 技術・家庭科指導(実技) 9/24(木)

渡壁 誠 (北海道教育大学 旭川校 教授)  
 松本 賢尚 (北門中 主幹教諭)

講師

授業や研究協議では、プログラムを工夫しながら作成するにあたり、生徒にもたせたい必要感につまらぬ授業づくりのヒントをいただきました。また、マイクロボットを用いた実技演習では生徒のつまづきを理解しながら学ぶことができました。御指導ありがとうございました。

(風連町立風連中学校 齋藤 裕史)



(5)

25 学校経営Ⅱ 9/28(月)

里 館 幹 彦 上川教育局 教育  
支 援 課 課 長  
玉 井 一 行 大 有 小 校 長  
田 中 明 人 士 別 中 校 長  
北 島 信 美 瑛 小 校 長  
森 田 聖 吾 北 星 中 校 長

Ⅱ 講 師 Ⅱ

(東神楽町立東聖小学校 教頭 石山 輝)

午前中は、危機管理の具体例と大有小「学校力」の実践を学び、スクールリーダーとしての教頭の在り方についてイメージを広げました。また、働き方改革推進校の取組を踏まえた協議が大変参考になりました。



26 体育科指導(実技) 10/2(金)

Ⅱ 講 師 Ⅱ  
佐藤 栄一(近文第1小 校長)  
五十嵐 敬(六合中 教諭)

マット運動は、技のグループで指導すると技能差に対応できることを教えていただきました。また、組み合わせ技のつなぎ技に着目すると、苦手な子ども意欲的に学べることを教えていただきました。早速、実践に生かしていきたいと思えます。御指導ありがとうございました。(士別市立士別小学校 柏倉 崇志)



27 国際理解教育 10/7(水)

Ⅱ 講 師 Ⅱ  
倉本 格 克(千代田小 校長)  
但野 祐 二(神楽岡小 教諭)  
齊藤 悦 代(神楽中 教諭)

(富良野市立扇山小学校小瀬 知里)

国際理解教育のねらいについて指導要領を基に御講話いただき、単元づくりの柱となる考え方や視点を学ぶことができました。授業では、生徒が相手意識をもって学ぶ姿に授業の質の高さを感じました。御指導、ありがとうございました。



28 特別活動 10/8(木)

Ⅱ 講 師 Ⅱ  
山川美千代(愛宕東小 校長)  
増田 展 明(知新小 教諭)

やる気を引き出す児童とのやり取りの方法や板書の見える化、家庭との連携方法などを学び、大変勉強になりました。協議では具体事例を元に地域連携について交流を深めました。今後も多くの先生方と関わり合いさらに研鑽を深めていきたいです。(富良野市立麓郷小中学校 中川 美咲)





32 書に親しもう 1/8(金)

講師 東方 郁夫 (東聖小 教諭)

講義で漢字の成り立ちと書で表現する魅力を学びました。実技で穂先の向きや筆運びの基礎を練習した後、作品制作や表具を体験し、書に表情を作る楽しさを教えていただいたことは、貴重な経験でした。御指導ありがとうございました。(旭川市立高台小学校 角浜 好美)



33 絵に親しもう 1/8(金)

講師 佐藤 賢一 (近文第1小 教諭)

「絵が苦手。」と言う児童が多いため、参加しました。いろいろな画材や画法を試しながら、自分の好きな絵を描くことができました。所々での確かなアドバイスもしていただき勉強になりました。今後は児童の困り感に寄り添った支援を心がけます。(和寒町立和寒小学校 山本 百里)



緑が丘小 各種実技指導 (木版画)



講師:村田 靖彦(愛宕中 主幹教諭) 板材やインクの種類やその違いについて、新しい知識を得ることができました。また、実際の制作を通して、新たな気付きと発見が多くあり、今後の指導に生かせる手応えを感じられた貴重な機会となりました。御指導ありがとうございました。(旭川市立緑が丘小学校 照山美由紀)

美瑛小 ICTの活用 (タブレットPCの活用)



講師:吉野 法行(東川中 教諭) ロイノートの基本的なことについて知ることができました。今後、児童一人に一台ICT端末が配付されます。児童に配られる前に、私たちが活用方法について理解しておく必要があることを改めて感じました。(美瑛町立美瑛小学校 渡邊 拓真)

出前講座寸描

東光小 各種実技指導 (書写)



講師:河治 宣人(旭川小 主幹教諭) 学びのキーワードは「筆圧」です。筆圧を意識し、毛筆の学びを硬筆につなげることを通して、日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することを目指し授業改善に取り組みます。貴重な学びの機会をありがとうございました。(旭川市立東光小学校 山本 明里)

新町小 ICTの活用 (タブレットPCの活用)



講師:伊藤 健治(永山中 教諭) 講義の中で、日常の仕事や授業など、様々な場面でのICTの活用方法を教えていただき、貴重な学びの機会となりました。紹介していただいた多くの実践例を今後の働き方、授業改善に生かしていきます。御指導ありがとうございました。(旭川市立新町小学校 谷口 萌実)

## 令和3年度 講座開設の工夫

- (1) 教職生活全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指す講座運営をする。
- (2) 教育経営研修では、教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質能力の充実を目指す講座を開設する。
- (3) 教育指導研修のうち、「幼保小連携教育」講座では、小学校との滑らかな接続を図り、学びの連続性を重視する。
- (4) 教育課題研修では、「学校・家庭・地域の連携」「教育講演会」「センター研究発表会」「学校力向上対策」の講座で多くの今日的教育課題に対応する。
- (5) 教科等指導研修では、小中間の連携を図るため、各校種合同で理論研修を行うとともに、小中それぞれの授業研究を行う。
- (6) 教科実技研修では、授業研究を重視する。また、「ICT活用」講座は、授業におけるICT機器の活用を重視し授業研究の充実、GIGAスクールの対応を図る。(eスポーツ体験研修の開催)
- (7) ICT実技研修では、これまでどおり「表計算」「タブレットPC」を2本柱に講座を開設し、時代のニーズに応えるため「プログラミング」についての講座も開設する。また、全講座で複数講師による少人数指導で対応するとともに、受講しやすくなるように全講座を半日日程で開設する。
- (8) 北海道立教育研究所と連携し、「ミニ道研」を開催する。
- (9) 期限付教員の指導力向上のため、各講座への積極的参加を勧める。
- (10) 講座開設情報は、開催要項に加え、センターだより、Webサイト、電子メールによる講座案内等により広く提供していく。
- (11) 講座運営に関する各種資料、関係図書の利用性を図れる資料室の充実に努める。
- (12) 新しい研修スタイルとして、日程の弾力的運用により感染予防と、受講者の参加しやすさを重視する。

### 令和3年度 ICT 実技研修講座の開設について

令和3年度から小学校・中学校ともに新学習指導要領による学習活動が展開されます。新指導要領では、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力のひとつとして位置付けられ、これまで以上に、ICTが大きな役割を果たすと期待されています。また、GIGAスクール構想により1人1台タブレットの環境が実現するなど、私たちの身の回りのICT化が進み、授業や校務のあり方が大きく変わることが間近へと迫っています。

教員に対しても、「情報機器やネットワークを活用」「サイバーセキュリティに関する知識」「著作権に関する知識」などへの対応が求められています。GIGAスクールで配付されたタブレットをお手にされ、「試してみたくなったこと」「疑問に思ったこと」など、感じられた先生方も多くいらっしゃったかと思います。また、旭川市ICTパークを活用した講座内容も考えておりますので、ぜひ当センターのICT実技研修講座を積極的に御活用ください。

#### 開設講座について

##### 【表計算に関する講座】

表計算ソフト（エクセルをメイン）に関して、3つの講座を開設します。

##### A 校務のための表計算入門（初級者向け）

表計算の概念やエクセルの基本的な使い方について研修します。数式や簡単な関数による計算や表の作り方を予定しています。

##### B 校務のための表計算活用（中級者向け）

応用的な関数（vlookup, if, sumif等）や入力規則、条件付き書式など、より実務に対応したエクセルの使い方についての研修を予定しています。

##### C 校務のための表計算活用／個別課題解決（中級者向け）

日常の校務で使用しているデータの疑問や課題を個別に解決します。前任者から引き継いだエクセルデータの操作方法や実態に応じた変更方法など、受講者のニーズに応じた研修を予定しています。

##### 【プログラミング教育に関する講座】

##### D 授業のためのプログラミング入門

小学校プログラミング教育の目的や理論についての解説やプログラミングソフトや教材を使った実習についての研修を予定しています。

##### 【タブレットPCに関する講座】

タブレットPCに関して、2つの講座を開設します。

##### E 学校で役立つタブレットPC入門（初心者向け）

タブレットやクラウドサービスの基本的な使い方について研修します。スイッチのON・OFFからカメラの活用など、授業や校務での簡単な活用について予定しています。

##### F 授業で役立つタブレットPC活用

タブレットやクラウドサービスを授業で効果的に活用する方法について研修します。授業を想定したアプリの紹介や操作方法、教材のデジタル化、著作権やサイバーセキュリティなどについて予定しています。

##### 【校務におけるICT機器の活用】

##### G ICTを活用した働き方改革（初心者向け）

ICT機器やクラウドサービスを校務で効果的・効率的に活用する方法について研修します。校務で活用できるアプリやクラウドサービスの紹介や操作方法、各種データのデジタル化などについて予定しています。

## 令和3年度 上川教育研修センター開催予定講座

番号	講座名	期日	研修内容	授業
1	書写指導（実技）	6/7	硬筆と毛筆を関連させ、日常に生かす態度を養う学習指導	中
2	読書活動	6/9	児童生徒が進んで読書に取り組むための工夫 ～朝読・家読等の取組～	小
3	学校経営Ⅰ	6/10	新しい時代を創造する学校経営の在り方	
4	特別支援教育	①6/15 ②7/13	障がいの特性に応じた指導の充実と校内支援の在り方	小・中
5	複式教育	7/6	主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましく生きる力を育む複式教育	小
6	学校力向上対策	7/26	今日的な教育課題の解決を図る学校力向上対策	
7	幼保小連携教育	7/27	小学校への滑らかな接続を目指す幼保小連携教育の在り方	
8	道徳科指導	①7/29 ②10/1	児童生徒の道徳性を高める道徳教育の在り方	小・中
9	国語科指導	①7/30 ②9/1	言葉による見方・考え方を働かせ、適切に表現する力を育てる国語科指導	小・中
10	学校事務実務	8/2	学校事務における今日的課題	
11	算数・数学科指導	①8/4 ②9/7	数学的活動の一層の充実を目指した算数・数学の授業の在り方	小・中
12	外国語（英語）指導	①8/5 ②10/6	コミュニケーションを図る資質・能力を育てる外国語（英語）指導の在り方	小・中
13	社会科指導	①8/6 ②10/14	社会的事象に関する基礎的・基本的な内容を身に付けさせる指導と評価の工夫	小・中
14	理科指導	①8/17 ②9/30	理科の見方・考え方を働かせ、問題を科学的に解決する力を育てる理科指導の在り方	小・中
15	生徒指導・教育相談	8/18	望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導の在り方	
16	学校・家庭・地域の連携	8/31	子どもたちの生きる力を育むための学校・家庭・地域の連携	
17	音楽科指導（実技）	9/2	音楽の特徴や演奏のよさを見だし、味わって聴く指導の工夫	小
18	ICT活用	9/3	ICTを効果的に活用した学習指導の在り方 ～各種機器の効果的な活用～	小
19	学校保健	9/8	児童生徒の心身の健康を育む学校保健の充実 ～専門性の確立と実践力の向上を目指して～	
20	学校経営Ⅱ	9/28	スクールリーダーとしての教頭の在り方	
21	ミニ道研A	7/7	北海道立教育研究所による遠隔研修 (学校教育基礎シリーズ)	
22	ミニ道研B	10/7	北海道立教育研究所による対面研修 (管内のニーズに応じた講座)	
23	センター研究発表会	12/14	「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」に関する第18次研究 2か年計画の2年次の研究を発表～センター研究員の実践、研究協力校の実践～	
24	書に親しもう	1/6	毛筆で心を伝える作品制作（小品）	
25	絵に親しもう	1/6	水彩画で心を伝える作品制作（小品）	
26	教育講演会	1/12	講師：山中 謙司（北海道教育大学旭川校） 演題：授業を変える学習評価～資質・能力の育成を目指して～	
ICT実 技研 修講 座	A 校務のための表計算入門	6/1, 7/30	エクセルの基本的な使い方や表計算の概念について (初級者向け)	
	B 校務のための表計算活用	6/4, 11/5	IF関数やVLOOKUP関数など、実際の校務で使うテクニックや応用 (中級者向け)	
	C 校務のための表計算活用/個別課題解決	6/18, 11/25	日常の校務で使用しているデータの疑問や課題を解決	
	D 授業のためのプログラミング入門	7/29, 11/18	小学校プログラミング教育の基本的な解説およびプログラミングの実習	
	E 学校で役立つタブレットPC入門	8/2, 1/7	iPadの基本的な使い方について	
	F 授業で役立つタブレットPC活用	8/2, 1/6	タブレットを授業で効果的・効率的に活用する方法について	
	G ICTを活用した働き方改革講座	6/11, 7/29	クラウドサービスを校務で効率的・効果的に活用する方法について	
	出前講座	随時	管内各校（教育機関）からの要請に応じ実施する	

～詳細日程は、4月にお届けする「研修講座開催要項」で御確認ください。～

上川教育研修センターでは、理論研究と実践検証を行った結果、1年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができた。

### 成 果

- ①指導と評価の一体化のモデルを示し、評価計画をより具体的（何を、どこで、何で、手立て）に考えることで、単元で育ませたい資質・能力にせまることができた。
- ②評価を2つの意味あるもの（指導に生かす評価と記録に残す評価）に分けて考えることで、効果的な評価計画を立て実施することができた。
- ③抽出児童生徒に対する評価の妥当性を入れた研究協議を行うことにより、評価方法と手立ての成果と課題を分かりやすく実感を伴って共有できた。

### 課 題

- ①「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の定義をもう少し分かりやすくはっきりする必要がある。
- ②今後、色々な教科で、「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価していくか検討していく必要がある。

詳細は、3月発刊の研究紀要第46号を御覧ください。

研究室だより

今、研究室では

第一八次研究 一年次

研究主題 「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の

在り方」く求められる資質と能力を育む指導と評価く

協校  
の実践

く児童が思考して問い続ける姿を目指すために、児童の意識に沿って思考が連続する過程を重視した学習く

旭川市立何陵小学校第三学年 国語科

授業者 上野 真吾

#### 一 単元の指導計画・評価計画を充実させる視点

本単元は、「本を読んで得た新しい知識を友達に伝える」ということを主な活動として設定した。そこで、単元前半で「本を読むと知識や情報を得ることができる」という知識・技能を身に付け、単元後半で「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付く」という思考・判断・表現を身に付けさせる学習活動を設定した。

主体的に学習に取り組む態度の評価については、最初に単元のゴールを児童と共有し、毎時間あての達成について振り返りシートに記述させ、単元の最後に全体の振り返りを行わせた。記録に残す評価場面は単元の最後に設定し、これまでの振り返りの記述や学習を通して学んだことを合わせて達成状況を判断した。

#### 二 本時における見取り方とその判断について

本時は、初めて知ることなどに着目して文章を読み、考えや感じたことを共有して、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付くことができることを目標とした。

「心に残ったところはどこだったのか」を交流することで、自分の考えとの「共通点」や「相違点」に注目させ、「一人ひとりの感じ方が異なること」に気付かせていった。教師は振り返りシートに書かれた「みんな心に残ったことが違って驚いた。」や「本にはおもしろさがたくさんあるんだな。」などの記述からねらいが達成できているかを判断した。

#### 三 本実践の成果と課題

毎時間のねらいに沿った丁寧な振り返りを積み重ねていくことで児童自身が自分の学習状況を捉え、学習を進めていくことの大切さを実感することができた。そのためには、単元のねらいに沿った毎時間の振り返りが蓄積できるような方法を検討することが課題である。

**協力校  
の実践**

「思いや考えを基に創造する姿を目指すために、資質・能力が活用・発揮される場面の設定を図る学習」

上川町立上川中学校第一学年 外国語科

授業者 鏡 匡助

**一 単元の指導計画・評価計画を充実させる視点**

本単元では、三人称単数現在の表現を学び、第三者についての説明や質問をできるようにする。これを基に、単元の最終目標である新しいA L Tの情報を現A L Tに質問し、ウエルカムパーティーを企画しようという学習に繋げる。

これらの活動が、文法指導に止まらず、自己表現に結び付くため、前半は知識・技能、後半に思考・判断・表現の観点に重きを置き、評価を行った。単元終末のパフォーマンステストと単元テストを記録に残す評価とし、それ以外の授業は、指導に生かす評価とした。

主体的に学習に取り組む態度については、毎時間振り返りシートを使って、何が分かって、何が疑問なのか等を記入させた。また、小単元ごとにそれまでの学習を振り返らせることで、その後の学習を見通すことができるようにするとともに、シートを回収し記録に残す評価の材料とした。

**二 本時における見取り方とその判断について**

本時の目標は、校長先生の情報を聞き出す質問をたくさん考えて、現A L Tに必要な質問をするための準備ができることである。本時は、次時に向けて指導に生かす評価場面とし、全員が既習の表現を用いて、自分の聞きたいことを英語で質問することができることを狙った。そのための手立ては、既習の表現を、家族紹介などのワークシートを振り返らせることで想起させるとした。評価場面の言語活動では、T1とT2でそれぞれ生徒の表現を見取り、授業後に生徒の学習状況を共有した。

**三 本実践の成果と課題**

単元の評価計画に指導に生かす評価を位置付けたことで、生徒の学習状況を把握し、指導計画の改善に繋げることができた。また、毎時間、目標達成に向けて、手立てを講じることができた。

理解が低かった生徒への手立てや主体的に学習に取り組む態度を見取るための振り返りシートの工夫が課題である。

**利用上のお願い**

会場利用に当たっては、右記の時間内での使用を守っていただくようお願いいたします。

また、当日の混雑状況によっては、当研修センターの駐車場に駐車できない場合があります。予め御承知おきください。

**貸室使用料〔一般〕**

(教職員等、「承認団体」が研修等で利用する場合は、下記金額の半額)

室名	午前 (9~12時)	午後 (13~17時)	夜間 (18~21時)
講堂	2,750円	3,080円	4,400円
講堂 A・B	1,380円	1,540円	2,200円
研修室/会議室	1,100円	1,320円	1,870円
和室	550円	660円	880円

**冷暖房料** (冷房料金7月1日~8月31日, 暖房料金10月1日~5月31日)

室名	午前 (9~12時)	午後 (13~17時)	夜間 (18~21時)
講堂	1,100円	1,320円	1,650円
講堂 A・B	550円	660円	830円
研修室/会議室	550円	660円	880円
和室	330円	330円	330円

\* 冬季は暖房料, 夏季は冷房料が加算されます (冷房料は講堂と第1研修室のみ)

**宿泊料**

2,750円 [暖房料1部屋] 440円  
\* 研修講座受講者, 「承認団体」等が行う研修に伴う宿泊者, 小中学生は1,320円

発行日 令和三年三月一日  
上川教育研修センター  
〒077-0100 旭川市六条通四丁目  
電話(0166)241-2501  
印刷所 東信印刷株式会社 尚

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。